

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	言語聴覚障害診断学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	2 (60) 時間(単位)
対象学年	一年次		学期及び曜時限	後期	教室名	406教室
担当教員	門脇康浩 他	実務経験と その関連資格	介護老人保健施設、病院で言語聴覚士として言語聴覚障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションを実施していた。			
《授業科目における学習内容》						
言語聴覚障害概論の内容を踏まえ、各種障害の評価・診断について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題(100点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
適宜、資料を配布する。						
《授業外における学習方法》						
講義で取り上げた評価法について、実施の習熟のため積極的に学生同士で演習を行うことを推奨する。						
《履修に当たっての留意点》						
検査については、グループで演習を予定しているため、積極的な取り組みを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自由会話の準備を通して、コミュニケーション上の問題点を把握し、解決策を考える。	配布プリント	コミュニケーション論で配布した資料や使用テキストを精読しておく。	
		各コマにおける授業予定	高齢者との自由会話演習(1) 高齢者の特徴と理解 自己分析と自由会話準備			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論で配布した資料や使用テキストを精読しておく。	
		各コマにおける授業予定	高齢者との自由会話演習(2) 地域の健常高齢者との自由会話の実施			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論で配布した資料や使用テキストを精読しておく。	
		各コマにおける授業予定	高齢者との自由会話演習(3) 自由会話の振り返り			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論、失語症 I で配布した資料や使用テキストを精読しておく。	
		各コマにおける授業予定	失語症者との自由会話演習(1) 高齢者の特徴と理解 自由会話準備			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論、失語症 I で配布した資料や使用テキストを精読しておく。	
		各コマにおける授業予定	失語症者との自由会話演習(2) 地域の失語症者との自由会話の実施			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	実際の自由会話を通して、自由会話の実際を知り、想定との違いを把握する。	配布プリント	コミュニケーション論、失語症 I で配布した資料や使用テキストを精読しておく。
		各コマにおける授業予定	失語症者との自由会話演習(3) 自由会話の振り返り		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳画像の種類と見方が理解できる。	配布プリント	脳の構造を事前に学習しておく
		各コマにおける授業予定	脳画像と診断(1)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳画像を見て構造を理解し、説明できる	配布プリント	脳の構造を事前に学習しておく
		各コマにおける授業予定	脳画像と診断(2)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳画像を見て、高次脳機能障害の責任病巣、中心溝が理解できる	配布プリント	脳の構造を事前に学習しておく
		各コマにおける授業予定	脳画像と診断(3)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	HDS-R、MMSEの特徴と検査手技が理解できる。	配布プリント	HDS-R、MMSEの検査下位項目を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	HDS-R、MMSE(1)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	HDS-R、MMSEの検査が実施できる。	配布プリント	HDS-R、MMSEの検査下位項目を事前に読んでおく
		各コマにおける授業予定	HDS-R、MMSE(2)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高いSLTAの概要、実施方法を理解できる。	標準失語症検査 検査マニュアル 配布プリント	各回で講義・演習を実施する範囲の検査マニュアルを読むこと。 検査実施の習熟を目的に学生同士で練習すること。各回時間中に実施方法の理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査 SLTA(1)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高いSLTAの概要、実施方法を理解できる。	標準失語症検査 検査マニュアル 配布プリント	各回で講義・演習を実施する範囲の検査マニュアルを読むこと。 検査実施の習熟を目的に学生同士で練習すること。各回時間中に実施方法の理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査 SLTA(2)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高いSLTAの概要、実施方法を理解できる。	標準失語症検査 検査マニュアル 配布プリント	各回で講義・演習を実施する範囲の検査マニュアルを読むこと。 検査実施の習熟を目的に学生同士で練習すること。各回時間中に実施方法の理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査 SLTA(3)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	本邦の臨床において失語症の評価として用いられる頻度が高いSLTAの概要、実施方法を理解できる。	標準失語症検査 検査マニュアル 配布プリント	各回で講義・演習を実施する範囲の検査マニュアルを読むこと。 検査実施の習熟を目的に学生同士で練習すること。各回時間中に実施方法の理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	標準失語症検査 SLTA(4)		